

イランにおけるアニメの諸相

——日本の「文化コンテンツ」はどのように捉えられているか——

高木 小苗

はじめに

「KAT-TUN（カトゥーン）の亀梨君⁽¹⁾、かっこいい」。ある大学生がこう話してくれたのは、2010年春のことであった。テヘラン近郊の大学で英語・英文学を専攻している20代前半の彼女は、日本に興味を持ち、2年近く日本語を勉強していると言う。筆者は、2008年秋まで、約3年間、イランに滞在していた。1年半ぶりに訪れたテヘランで、日本の男性アイドルのファンに出遭った体験は、筆者にとって印象深いできごとであった。というのも、この出遭いが、日本のアニメ、テレビドラマや映画、マンガ、小説、ゲーム、音楽のような「文化コンテンツ」が、イランの若者の間で広まりつつあることを実感するきっかけとなったからである。

この報告では、日本の「文化コンテンツ」のなかでも、アニメに注目したい。なぜなら、アニメは、イランで最も一般的な日本の「文化コンテンツ」の一つだと考えられるからである。イランでは、国営放送「イラン・イスラーム共和国放送⁽²⁾」のテレビ局（以下、国営テレビと表記）で、1980年代から日本のテレビアニメが繰り返し放送されてきた（イランで放送されたアニメについては、本稿末尾の表参照）。また、日本の「文化コンテンツ」への関心が高いイランの若者にインタビューを行ったところ、最初にアニメを観て気に入ったので、原作のマンガを読んだり、テレビドラマや実写映画を観たという回答が確認された。そして、例えば比較

的男性に人気があるゲームに対し、アニメは男女を問わず観られている。

本稿では、まず、筆者がイランにおける日本の「文化コンテンツ」の受容に関心を持つに至った経緯について述べる。その上で、筆者が2012年半ばにテヘランを訪れた際に、イランにおける日本の「文化コンテンツ」の受容について知り得たことを報告したい。具体的には、10代から30代の複数のイラン人男女を対象に行ったインタビューで得た情報、また日本アニメのファン達が集うウェブサイト「アニメの広場」(仮名)、同ウェブサイト管理者達が中心となり開催されている定期集会、その参加者に対するインタビューで得た情報である。そして最後に、イラン国営テレビが放送してきた国内・海外のアニメーション、とりわけ日本アニメについて概観する。

1. イラン人にとっての日本と日本人像

イランで日本人だと自己紹介すると、「サヨナラ」というあいさつや、「サムライ」「ゲイシャ」「テリヤキ」「ハラギリ」のように海外でよく耳にする日本語起源の言葉が返ってくる。そして、それと共に、「トヨタ」「ソニー」などの日本企業の名、さらに「オシーン (「おしん」)」「タノクラ (田倉)」「リ्यूザー (竜三)⁽³⁾」「ハニコー (「はね駒」)⁽⁴⁾」「アズ サルザミーネ ショマーリー (「北の国から」)⁽⁵⁾」などの日本のテレビドラマの題名やその登場人物の名が次々と飛び交う。日本国内で1983年春から1年にわたり放送されたNHKの朝の連続テレビ小説「おしん」は、アジア圏を中心に世界的な人気を誇った。イランでも、1986年からイラン国営テレビでペルシア語吹替版が放送され、非常に高い視聴率を獲得した⁽⁶⁾。

さらに、近年のイランでは、韓国や中国の電化製品や車が普及しているものの、一般的に、現在でもイラン人の日本製品の品質に対する評価は高い。また、イランの40歳以上の世代には、1990年前後に日本へ渡航し、出稼ぎ労働をした経験のある人々が多いので⁽⁷⁾、街中で、「日本人ですか」

とか、「私の甥が日本に行っていたよ」などと、よく話しかけられる。「どこから来たの」と尋ねられ、「日本人だ」と答えると、先方の態度はそれ以前に比べ柔らかくなり、日本の湿潤な「気候」や春の桜などの「自然」、近現代の「科学技術」の発展、そして日本人の「礼儀正しさ」「伝統」に対する賛辞が述べられる⁽⁸⁾。

しかし、多くのイラン人の日本への関心はここまでである。1994年に設立されたテヘラン大学外国語学部日本語・日本文学科⁽⁹⁾は、イランで日本語を学ぶことができる数少ない機関だ。筆者が知り合った同学科の学生の中には、全国共通の大学入学試験、通称コンクール受験時に、外国語を学べる学科全般を志望した結果、日本語学科に合格し、大学で日本や日本語を勉強するうちに関心を持つようになったという人が少なからず存在した。もちろん、彼らの中には、子供時代に放映された「おしん」などのテレビドラマや、広島への原爆投下時に被爆し白血病で亡くなった「折鶴の少女」佐々木禎子さんの生涯を紹介する絵本を読んだことがきっかけで日本に関心を持ち、日本語学科を目指して大学を受験したという学生もいたが、決して多くはなかった。

また、筆者が数年間という限られた期間の人間関係を通して知り合った一般の日本語学習者には、自分や家族の仕事のために、かつて日本に滞在した経験がある人や日本人を親に持つ人が多かった。彼らは、日本語を忘れないため、あるいは日本語能力を生かして通訳や観光ガイドになることを目指して勉強していた。一方、日本語学科の学生ではないが、日本語を勉強する10代から20代の若者の多くは、専攻分野を学ぶために日本の大学や大学院への留学が決定している学生であった。このように、あくまで筆者個人の印象であるが、数年前までのイランでは、自発的に日本や日本文化に関心を見出し、日本語を勉強し始めたという人々は、決して多くはなかった。

例えば、イランには日本の伝統的な格闘技、武術、忍術などを習う人々

がいるが、国民的スポーツであるサッカーに比べれば、少数派だ。イラン国営テレビで放送される小津安二郎や黒澤明の映画⁽¹⁰⁾、宮崎駿のアニメ映画は比較的良好に知られている。しかし、それ以外の映画監督の名や映画について知識があるのは一部の映画好きな人々のみであった。「ラスト・サムライ」(2003年公開)や「SAYURI」(2005年公開)などのハリウッド映画の海賊版DVDを通して得られる「サムライ」「ゲイシャ」「ニンジャ」などのイメージ⁽¹¹⁾は、友人達の日本観に根強く影響していた。彼らが冗談交じりに「ゲイシャ」について尋ねるたびに、笑って誤魔化せず、芸者という職業について懸命に説明してしまう自分は、やはり日本人だなあと痛感したものである。

そのようなわけで、冒頭で紹介した、日本語を勉強している「亀梨君」のファンとの出遭いは、ステレオタイプの日本に対するイメージに内心辟易気味の筆者にとって、なかなか新鮮なできごとであった。その後、筆者は、2012年春に彼女に再会した。彼女の携帯電話には、日本で売られている複数のストラップが吊り下がっていた。また、彼女と同時期に日本語を勉強し始めたイラン人女性が個人的に描きためている「マンガ」も見せてもらった。

それから半年が過ぎた2012年夏、筆者の留学時代の知人が来日した。この知人は、「亀梨君」のファンの大学生と同年代である。彼女は、自分と友人のために、マンガ『Bleach』⁽¹²⁾の既刊単行本50数巻と「Bleach」の登場人物のコスチュームやフィギュア、土産用の木刀、忍者の衣装の黒足袋などを買いたいという。また、男性アイドルグループSMAPの木村拓哉が写った電化製品の広告に「かっこいい」と反応し、アニメやマンガのコスチュームやフィギュアを選ぶ自分の行為が「オタク⁽¹³⁾」的だと認識していた。筆者が知る数年前までの彼女は、宮崎駿のアニメ映画を観る程度で、同時期の日本で流行っているテレビアニメやマンガ、映画や音楽、芸能人をほとんど知らなかった。彼女によると、現在、彼女の周囲では、

「Bleach」 「NARUTO -ナルト-」⁽¹⁴⁾ 「ONE PIECE」⁽¹⁵⁾ 「DEATH NOTE」⁽¹⁶⁾ などの日本アニメが人気なのだそう。そして彼女自身も、それらのアニメや原作のマンガの動画・画像などの文化コンテンツを、一現在の日本では、違法行為とみなされる行為であるが、インターネット上の違法な配信サイトからダウンロードして、楽しんでいるという。

このように文化コンテンツのダウンロードが可能になったのは、この数年の間に、テヘランを中心としたイランの主要都市の一般家庭に、高速インターネット環境が普及したからである。筆者の知るテヘランの中流家庭の中にも、インターネットカードによるアナログ電話回線経由のダイヤルアップ接続から、2008年頃に安価になった ADSL や WiMAX などの無線 LAN 契約に乗り換えた家庭がある。テヘランの複数の大学の寮では、以前はコンピュータールームでのインターネット接続が一般的であったが、筆者の留学中に徐々にノートパソコンを持つ学生が増えた。その後、2009年から2010年にかけて、各学生の部屋の机から有線・無線 LAN に接続するシステムが導入されたそうである。現在はテヘラン大学中央図書館を訪れると、机上で図書を閲覧しながら、自分のノートパソコンでインターネットを使用できる。

例えば、我々の記憶に新しい2009年6月の大統領選挙に対する抗議デモの際には、Facebook などのソーシャル・ネットワーキング・サービスや短文を投稿できる情報サービス Twitter による情報交換や画像公示が頻繁に行われ、その結果、イラン当局がそれらのサービスへのアクセス統制に踏み切った⁽¹⁷⁾。また、日本でも報道されたように、2012年春には、一時的にイラン国内のインターネット接続が遮断され、秋には「Google」と同サイトのメールサービス Gmail へのアクセスが遮断された。同様に、2012年夏以降は「Google Japan」の関連サイトや「楽天市場」「Yahoo! Japan」の関連サイトなど、複数の日本語ウェブサイトの閲覧が困難な時期があった。

2012年6月現在のイランのインターネット人口は4200万人、全人口との比率で46.7%がインターネットを利用している⁽¹⁸⁾。この高速インターネット利用環境の普及と利用者の増加が、イランの若者の日本の文化コンテンツ受容に大きく貢献したのである。

2. イランの若者と日本アニメ ―インタビューを通して―

2012年秋、筆者はテヘランを再訪した。そして知人の紹介や、アニメファンの集うウェブサイトの定期集会会場で、イラン人の若者と話す機会を得た。

本節では、知人の紹介により知り合った日本のアニメを好きな10代後半から30代初の男性6名と女性2名に対するインタビューの情報を紹介する。

2-1. 20代後半の女性2名：幼少期に1970～80年代制作アニメを観た世代

AさんとBさんは、2人とも幼少期にイラン国営テレビが放送していた1970年代から80年代に制作された日本のテレビアニメを観て育った（イランで放送された日本アニメについては、本稿末尾の表「イラン国営テレビにより放送された日本アニメ」を参照）。

Aさんは、先述の亀梨和也ファンの女性だ。彼女は20代後半になった。亀梨和也を知ったのは、彼が出演していたテレビドラマ「ごくせん⁽¹⁹⁾」である。「ごくせん」のテレビドラマを知るきっかけになったのは、インターネットで見つけた「ごくせん」のアニメだった。Aさんは、まず、インターネットでアニメを観る。面白いアニメは、原作のマンガ、そしてテレビドラマや実写映画を観て、さらにアニメやドラマ、映画で使われている歌も聴く。このようにして、それらの文化コンテンツの創作に関わった俳優や、歌手・作曲家などの芸能人にも詳しくなる。

このように、彼女が最近の日本の文化コンテンツに関心を持つきっかけになったのは、テレビで観たスタジオジブリ制作の宮崎駿監督アニメ映画

「千と千尋の神隠し⁽²⁰⁾」と、2007年に第5回テヘラン国際アニメーションフェスティバルに出品され、イラン国営テレビで放送された「ハウルの動く城」だった。当時は日本アニメを英語字幕と共に観ていたが、4年前に日本語を勉強し始め、今では日本語を聴き取りながら観ている。

また、ちょうど4年半前に自宅にADSLを導入してからは、アニメ動画をダウンロードし始めた。そのようにして観た「NARUTO -ナルト-」「結界師⁽²¹⁾」「Fairy Tail⁽²²⁾」は、彼女の考え方に良い影響を与えた。何事も頑張って努力すれば、目標に至ると前向きに考えるようになった。

彼女の同年代の友達、Bさんの職業はグラフィック・デザイナーだ。Bさんは4歳の頃から絵を描くのが好きだった。当時は、まだ字が書けなかったもので、描いた絵についての自作の物語を父親に説明し、絵の傍らに書き留めてもらっていた。幼少期に好きだったアニメーションは、ディズニーの映画「リトル・マーメイド⁽²³⁾」、そしてイラン国営テレビで観た日本のアニメである。特に、「セレンディピティ物語」「一休さん」「まんが水戸黄門」がお気に入りだった（これらの日本アニメについては、本稿末尾の表を参照）。

その後、高校、大学で芸術を専攻するうちにアニメーターを志望するようになったが、イランで人気のある3Dアニメーションスタイルがあまり好きではなかったもので、今の職業を選んだ。彼女は日本のアニメに多い2Dアニメーションが好きで、吹替版DVDで観た「千と千尋の神隠し」「ハウルの動く城」を気に入り、インターネットでスタジオジブリのアニメを入手した。

アニメについて調べるうちに、伝統的な日本画を知り、日本に留学して芸術専攻しようと考えて、4年前に日本語を勉強し始めた。現在は、日本のマンガから学んだ画風で、個人的にマンガを描きためていて、セリフは日本語か英語で書いている。

Bさんは、日本のアニメの画風が好きで、物語の構成も複雑で面白いと

感じている。例えば、アメリカのアニメーションは、ストーリーが比較的単純で、登場人物がどのような行動を起こし、その物語が最終的にどのような結末を迎えるか、最初から明らかだ。これに対し、日本のアニメは、悪人と善人の区別が曖昧で、主人公が悪い行いをする場合もあれば、善人に見えた役が、実際には悪役であるというような意外性があると、彼女は思う。

彼女は、Aさんと一緒に、2人の若い女性の生活を描く「NANA⁽²⁴⁾」のアニメを観て、主人公のNANAの生き様を「カッコいい」と感じ、マンガや映画をすべて観た。また、「のだめカンタービレ⁽²⁵⁾」のドラマを観て、俳優の玉木宏⁽²⁶⁾のファンになった。Bさんが、玉木宏のラジオ番組に電子メールを送ったところ、玉木宏本人が、番組放送中に、彼女のメールを名前と共に紹介してくれたそうである。

2-2. 30歳前後の男性2名：幼少期に1970～80年代制作アニメを観た世代

CさんとDさんは、先の女性達と同じように1970年代から80年代の日本アニメを観て育った世代である。

Cさんは、アメリカのアニメーションに、年少者を対象としたものが多いのに対し、日本のアニメには、20代・30代の成人にとっても面白い作品が多いと語る。アニメをきっかけに日本語を勉強し始めたが、今では日本語自体に興味がある。日本に関心のある仲間との交流も楽しみとなり、日本語の勉強を続けている。

一方、Dさんが日本語を勉強し始めたきっかけは、彼が好きなゲーム⁽²⁷⁾「サムライスピリッツ⁽²⁸⁾」の挿入歌「心をつないで⁽²⁹⁾」だった。この曲の旋律と2人の声優の歌声の美しさに聴き惚れ、その歌の意味をどうしても知りたくなったのだ。

Dさんはイラン・イラク戦争（1981-1989年）が始まった1981年に生まれた。自分や同世代の子供の心理に、この戦争は大きな影響を与えたと

考えている。彼の幼少期には、イラン国営テレビは主に日本や東欧のアニメを放送し、アメリカのアニメはほとんど放送していなかった。イスラーム革命後、初期の国営テレビのチャンネルは2つのみで、1日の放送時間は昼間の12時間以内に限られていた。そして、そのうちの1時間程度が子供向けアニメの放送時間であった。彼が10歳になるまで、イラン国内ではビデオテープの鑑賞が禁止されていたので、アニメを観る手段は国営テレビに限られていた。Dさんは、当時、日本のテレビアニメ「南の虹のルーシー」の主人公ルーシーの絵を描き、部屋の壁に貼っていたことを覚えている。絵と言えば、それしか知らず、自分の描いている絵の画風が「マンガ」であることは認識していなかったようだ。

Dさんは、約12年前にインターネットを使用し始め、宮崎駿監督の名を知った。その後、偶然入手した高畑勲監督「火垂るの墓⁽³⁰⁾」は、彼が、これまで観た最も優れた反戦映画だ。この映画をきっかけに宮崎駿監督が制作したスタジオジブリのアニメ映画作品や2010年夏に早世した今敏⁽³¹⁾監督の作品は、すべて観た。

その後、Dさんはゲームに興味を持った。印象的なゲームは、「ザ・スーパー忍」(1989年発売)、「ザ・スーパー忍II」(1993年発売)、「ベアナックル」(1991年発売)、「ファイナルファンタジーVII」(2006年発売)、「メタルギアソリッド2」(1998年発売)、「パラサイト・イヴ」(1998年発売)、「鬼武者」(2001年発売)、「キングダム ハーツ」(2002年発売)などである。また日本のゲームでは、悪役の人間像の設定や価値観の描写が非常に優れていて、「ファイナルファンタジー」シリーズの悪役兵士セフィロスは、ロールプレイングゲーム史上、傑作の悪役だと考えている。

Dさんは歴史に関心があり、日本の歴史や様々な日本の文化コンテンツの系譜について、意識的に情報を収集している。彼は、自分が日本のアニメやゲームに関心を持ち、中国語や韓国語ではなく、日本語を勉強するようになった理由について考えてみたことがある。子供時代にイラン国営

テレビが繰り返し放送していた、「ピノキオより ピッコリーノの冒険」「あらいぐまラスカル」「ペリーヌ物語」「家族ロビンソン漂流記 ふしぎな島のフローネ」「南の虹のルーシー」「牧場の少女カトリ」「アルプス物語 わたしのアンネット」「若草物語」などの1970年代後半から80年代前半制作の日本アニメのペルシア語吹替え版を観て、Dさんは育った（これらのアニメについては、本稿末尾の表参照）。彼は、自分の脳裏には、それらのアニメの映像が、無意識のうちに残っていたのではないかと、そして成長して観た日本アニメの映像や緻密な構成のゲームが、再び自分を日本に引き寄せたのではないかと感じている。Dさんによると、特に「ピノキオより ピッコリーノの冒険」「南の虹のルーシー」の吹替え音声は、当時のイランの名高い俳優達が担当した非常に質の高いものであったそうで、筆者もぜひ観るようにと勧められた。

2-3. 大学受験勉強中の10代後半の男性：日本アニメのメッセージ性を重視するタイプ

Eさんは、高校で芸術を専攻し、現在、大学受験のために勉強中である。子供の頃に好きだった日本アニメは「キャプテン翼」だ。彼は、数年前に、彼が通う英語の語学学校の担当教師から紹介されて、「Bleach」のアニメを観た。彼の英語教師もまた、その友人から「Bleach」のアニメを紹介された。

「Bleach」のアニメの冒頭部分は、英語の授業のクラスメイト達の多くにとって退屈なものだったが、Eさんには非常に魅力的だった。これには、彼の弟が「Bleach」のアニメを観たことがあったということも影響している。Eさんは、その後、「DEATH NOTE」のアニメや実写映画も観て、同作品の着眼点やストーリーを非常に興味深く感じた。

Eさんは、日本人はアニメやその原作のマンガの制作により、日本の新たな「伝説」「神話」を創ったと感じている。「Bleach」に登場するEさ

んと同年代の登場人物の精神力や生き方は、彼に大きな影響を与えた。彼は、自分の部屋の壁に、「Bleach」の登場人物の絵やポスターを貼っている。また「Bleach」の悪役は、非常に精神的に強く、悪役なりの理念、目的を持っている点が魅力的だ。日本アニメを通して、Eさんは、社会的権力や肉体的強さよりも、精神的強さや魂を重視するようになった。そして、日本の文化に関心を持ち、約2年前から日本語を勉強し始めた。

このように、Eさんが日本アニメを観るようになったきっかけは画風ではないが、彼は日本アニメに多い2Dアニメーションスタイルが好きだ。しかしEさんが日本のアニメを勧めた同年代の友人達は、3Dアニメーションを好んでおり、2Dアニメーションが主流の日本のアニメは古くさいと考え、興味を示さないそうだ。

現在では、かなりの数のイラン人が日本アニメを観るようになったが、彼は、一般的なイランの若者にとって日本のアニメは「重すぎる」のではないかと感じている。現在のイラン社会では、自由を求め、国外に移住したり、煙草や麻薬に走る若者もいるが、彼は、「Bleach」「DEATH NOTE」のアニメやマンガを通して、自分の置かれた生活環境や社会的制約により感じる精神的ストレスを乗り越えることができた。今では、アニメはただの子供騙しではなく、人生の一部だと感じている。

Eさんが指摘するように、現在のイランでは、若者なら誰でも日本アニメを観るというほどに、日本アニメが普及しているわけではない。メッセージ性が強く、制作者の問題意識や理念が明確に打ち出されている日本アニメは、EさんやEさんの弟のような若者を惹きつける場合もあるが、Eさんの友達のように退屈に感じる人もいる。しかし、一方では、次節で紹介するように、日本アニメの娯楽性を楽しんでいる若者もいる。

2-4. 大学生の男性3名：アニメの「マニア」、イランの「アニメオタク」達

Gさん、Hさん、Iさんは高校時代の同級生で、近所に住む幼馴染だ。

大学での専攻は、Fさんは経営学、Gさんは化学、Hさんはコンピュータ・プログラミングだ。子供時代には、イラン国営テレビで「アルプスの少女ハイジ」「一休さん」「まんが水戸黄門」「キャプテン翼」「デジモンアドベンチャー」(本稿末尾の表参照)などを観た。その他にもアニメーションのビデオテープを購入し、鑑賞していた。大学1年生だった3年前から、現在のように日本アニメを網羅的に観始めた。これまで観たアニメの数は、軽く1,000本を越えていて、その数は自分達にもわからない。Hさんは、数年前から日本語も勉強している。

観たアニメは互いに紹介し合い、アニメ関連のウェブサイトにてID登録して、インターネット上で他のファンと情報交換も行う。しかし、アニメファンの集う定期集会等には積極的には参加しない。基本的には、自分達の間で、アニメやマンガ、ゲームや音楽を楽しんでいる。Fさんはメタル系⁽³²⁾音楽が好きで、X-Japan⁽³³⁾のファンだ。Gさんは山崎まさよし⁽³⁴⁾のファンだ。3人は、メッセージ性が強い日本アニメが存在することは理解しているが、その一方で、ただ面白いコメディアニメも好んで観ている。

彼らは、筆者が今回会うことのできたアニメファンの中で、最も「オタク」であることを自覚している「真のマニア」達、いわばイランのオタク達だった。彼らは、「アニメについて調べるなら、ゲームについても質問する必要があるんじゃないかな」などと、筆者が質問の際に注意すべき点を指摘してくれた。また、彼らのうちの1人に「あなたはどれくらい日本のアニメについて知っているの」と質問され、筆者はアニメについてもっと勉強しなければならないと実感した。彼らに、日本のアニメ産業について問うと、日本のアニメ業界は、日本アニメがイランでこれほどまでに需要があることに注意を払い、「メディアミックス」⁽³⁵⁾形式による作品を紹介して、新たな市場を開拓するべきだと勧めてくれた。

3. アニメファンの集うウェブサイトと定期集会

3-1. アニメファンのウェブサイトについて

アニメとマンガのファンのウェブサイト「アニメの広場」(仮名)は、運営者達によると、中東随一のアニメとマンガの専門サイトなのだそう。運営者達は、完全なボランティアでウェブサイトの運営管理を行っている。ウェブサイトには、ID 未登録の状態でアクセスすることが可能だが、サイト全体を閲覧し、掲示板に書き込みを行うためには、ID を登録する必要がある。2012 年末現在、登録者は 3 万 8000 人近くで、そのうち頻繁にウェブサイトログインしている登録者は 8154 名。現地時間の平日午前中でも、80 人以上がアクセスしている。ウェブサイト内の掲示板形式のフォーラムでは、4 万 9000 件近くの議題が提起され、2013 年 1 月上旬現在、140 万 3400 件以上の書き込みが行われている。

このウェブサイト ID 登録する利用者は、政治的、宗教的、非倫理的な書き込みは行わないというルールを承諾しなければならない。また、同ウェブサイトで提供するアニメやマンガのコンテンツのデータは、運営者集団による自主検閲を経て公開されており、非イスラームの画像・情報は削除されているようだ。

ウェブサイトは、日々更新されるアニメ・マンガ関連の情報コーナー、ブログ、「フォーラム」と名付けられた BBS (掲示板)、マンガの紹介と画像データ欄のコーナー、日本文化の紹介コーナーなどから構成される。「フォーラム」と呼ばれる BBS (掲示板) が、ウェブサイトの目玉であり、この「フォーラム」は、次の 7 部門から構成されている。

- (1) 「アニメーションの世界」(アニメーションとショートアニメーション⁽³⁶⁾の 2 部門構成)
- (2) 「アニメ一般」に関する自由討論のコーナー

イランにおけるアニメの諸相

- (3) 「最も人気のあるアニメ」に関する自由討論のコーナー（「NARUTO -ナルト-」「Bleach」「Fairy Tail」「銀魂(ぎんたま)⁽³⁷⁾」など）
- (4) 「アニメの画像データ」の配信
- (5) 「アニメの翻訳・字幕データ」の配信
（有志により作成されたアニメのセリフの翻訳・字幕データ（いわゆる「ファンサプ」）の配信）
- (6) 「芸術の世界」
（日本のニュース、日本社会・文化・伝統・歴史についての情報、日本語、日本料理のレシピ、折り紙、スカイツリーや東日本大震災の情報など）
- (7) 「コンピュータ、携帯関連情報」の提供

また、マンガのコーナーでは、例えば、アクション、剣術、格闘技、歴史、恋愛、妖怪などの様々な分野のマンガが紹介されている。マンガと共に、「manhwa」と呼ばれる韓国のマンガのデータも公開されていて、イランで、日本のマンガ同様に、韓国のマンガの人気の高まっていることが窺える。

3-2. アニメファンの定期集会

アニメのファンが集うウェブサイト「アニメの広場」（仮名）の定期集会は、現在、半年毎に開催されている。筆者は、7回目の集会に出席する機会を得た。第一回目の集会の参加者は40人程であったそうだが、今回の集会には300人以上の様々な世代の男女が訪れていた。

開催会場のホールの入口で招待券を渡すと、袋を渡された。袋の中には、DVDのセット（中身は人気のあるアニメ作品とイラン人のマンガ家達のマンガ作品の画像）、折り鶴、アニメのマークの入った手作りキーホルダー、飲物とお菓子が入っていた。会場は、ホール中央を境に、入口か

ら見て奥が男性席、手前が女性席である。会場の左手中央が司会者の席で、右手の壁沿いには、手前からアニメのフィギュアやDVD、ポスターを売るコーナーが並ぶ。そして、その列の真中ではウェブサイト上で放送されているラジオの司会者の男性が熱弁をふるっている。

集会の内容は、主に、昨今のアニメやマンガについてのスピーチ、ウェブサイトの運営に携わる人々とイランのマンガ家達に対する表彰であった。午後には階下の食堂で、イラン料理がふるまわれ、最後に、アニメの登場人物が描かれたケーキが登場して、お茶の時間となった。

3-3. 定期集会会場で会ったアニメ・マンガのファン達

3-3-1. 10代半ばの女性達2名：インターネット世代

10代のIさんとJさんは、物心ついた頃からインターネットが存在したイランのネット世代である。

高校生のIさんは、ウェブサイトの仲間の活動に積極的に参加している。彼女は、日本語を勉強して1年半だ。来日経験はないが、日本のアニメやマンガから自然に憶えた流暢な日本語を話す。彼女は、アニメやマンガの絵をノートに書きためている。そして、嫌いなアニメのDVDを会場で割ってしまうほど、アニメに対する思い入れが深い。

中学生のJさんは、日本語を勉強し始めて1年半だ。ウェブサイトと今回の定期集会の運営に携わり、非常に社会性のある女性だ。日本の人々に、イランには、こんなにも日本のアニメやマンガを好きで、日本文化に関心を持つ人々がいるということを知ってほしいと、語ってくれた。また、彼女は、自宅で女の子同士集って誕生会を開く際には、アニメの「コスプレ」もするそうである⁽³⁸⁾。

3-3-2. 20代半ばの女性：マンガ家

Kさんは、兄がマンガを描くのを手伝い、昔のペルシア世界を舞台に

活躍する少年が主人公のイラン初の「マンガ」作品を共同作成した。彼女達のマンガは多くの読者を抱えている。彼女は、イランのマンガ・コミック業界で現在主流の「コミック・ストリップ形式⁽³⁹⁾」にはあまり関心がない。日本のマンガの画風が好きで、たとえイラン社会での需要がなくても、自分は、この画風で描いてゆくしかないのだと語る。彼女と彼女の兄のマンガは、歴史的なペルシア世界を舞台としているため、登場する女性はベールをかぶり、ほとんど肌を露出しておらず、イスラームの宗教規範に反していない。

彼女は、手塚治虫に関するドキュメンタリー番組などを観て、日本のマンガ史について勉強している。アニメーターやマンガ家、アニメやゲームなどで使用される楽曲の作曲・編曲家に関する知識も豊富である。宮崎駿のアニメ映画や高橋留美子⁽⁴⁰⁾のマンガ作品が好きだ。アニメやマンガのファンの中でも、彼女のように特定の日本人マンガ家などの氏名を挙げることができる人は珍しかった。

3-3-3. 大学生の女性：日本のアニメファンに関する感想

Ｌさんは、大学に通う20歳前後の女性だ。ちょうど定期集会前に、日本から帰国したばかりであった。会場の女性席では、彼女が日本で購入した『週刊少年ジャンプ』が、回し読みされていた。

彼女は、1年ほど前に日本語を勉強し始めて、ウェブサイト「アニメの広場」の仲間と知り合ったが、アニメ・マンガファン歴15年以上の筋金入りのファンである。彼女がアニメを好きになったきっかけは、「美少女戦士セーラームーン⁽⁴¹⁾」だ。4歳の頃からマンガを描き、周囲に見せていたが、最近、自分のマンガの画風やストーリー構成に納得がゆかず、描くことをやめてしまった。現在は専門の勉強が忙しく、以前に比べアニメやマンガから遠ざかっている。

彼女は、日本で「元祖オタク」を目撃して、日本人が一般的に「オタク」

に対して持つ印象について知った。彼女が街中で見かけた「オタク」が運転する車、いわゆる「痛車」(いたしゃ)の車体には、全体にアニメの絵が描かれ、車内にはフィギュアなどのアニメ関連のグッズが並べられていた。その乗用車を目撃した日本人は失笑していたようだ。

また、彼女の日本人の友人は、毎週テレビアニメを観ているが、アニメの放送時間が終わると、あっさりとテレビの前を離れる。Lさん達のように、ひいきのアニメのポスターやフィギュアなどの関連グッズを収集するために夢中になることはない。さらに、その友人は、母親が買い与えてくれた「NARUTO -ナルト-」のタオルを、友達にからかわれるのが恥ずかしくて使えないと、話していたようだ。

Lさんは、「いわゆる一般的なアニメ好きの日本人は、イランのアニメファンのように関連グッズのコレクターではない。私達のようなイランのアニメファンは、日本ではみんな「オタク」だ」と笑っていた。それに、日本人が誰でもマンガを描けるわけではないと知り、驚いたそうである。

4. イランにおけるアニメーションと「アニメ」

ペルシア語には、いわゆる広義の「アニメーション」の同義語に相当する単語「プーヤーナマーイー」が存在し、公式には、この表現が「アニメーション」の意味で使用されている。しかし、一般的には、「アニメーション」という英語由来の単語が使用されることが多い。他に、同じく英語由来の「カートゥーン⁽⁴²⁾」という表現が用いられ、これに加えて、最近では「アニメ」という和製英語表現も定着しつつある。これらの3つの表現は、アニメに通じた人々の間では、狭義には使い分けられている。彼らの定義は、日本国内で一般的に流布しているものとは異なり、海外の定義⁽⁴³⁾とほぼ同様である。

すなわち、「アニメーション」は、広義のアニメーション全体を指す言葉であり、2D アニメーション、3D アニメーション、エンターテインメント、

アート、産業用などの全てのアニメーションが含まれる。日本アニメや、粘土細工・人形・ぬいぐるみなどを使用した「ストップモーション・アニメーション」(コマ撮り)⁽⁴⁴⁾も、アニメーションの一分野として認識されている。そして、狭義には、ディズニー映画などのアート性の高い有名な動画作品を指すこともあるそうである。これに対し、狭義の「カートゥーン」は、エンターテインメント性が高く、子供向けの作品を指す。今回のインタビューの対象者であった若者は、幼少期に観た思い出のアニメを「カートゥーン」と認識している。つまり、イラン国営テレビにより放送されてきた1970年代から90年代の日本のテレビアニメもまた、この「カートゥーン」に含まれる。そして、最後の「アニメ」は、いわゆる日本の近年のアニメーション全般を指す。また、同様に、「アニメスタイル」、つまり日本のアニメーションのスタイルで作成されたアニメーションを指す場合もある。

現在のイラン国営テレビには、国内向け地上波放送として、アナログ放送8チャンネル系統(デジタル放送での視聴も可能)、デジタル放送8チャンネルが存在する。デジタル放送8チャンネルのうち、アニメーション専門チャンネル「プーヤー」(2012年設立)、外国製映画専門チャンネル「ナマーイエシュ」(2011年設立)、外国製ドラマ専門チャンネル「タマーシャー」(2012年設立)では、日本のテレビアニメ、アニメ映画・映画、ドラマも放送されている。

さて、イラン・イスラーム共和国放送はイスラーム革命の理念に則って運営されており、放送の内容に関する規制が存在する。地上波放送・デジタル放送チャンネルで放送される外国製の番組は、すべて、ライセンス取得の担当部署により購入された後に、検閲を受ける。検閲の結果、部分的にカットされたり、吹替えの段階で表現が改変される場合もある。本稿末尾の表の日本アニメは、このような工程を通過した上で正式に放送されるに至ったものである。最近では、スタジオジブリの「崖の上のポニョ」

「借りぐらしのアリエッティ」のライセンスが取得され⁽⁴⁵⁾、2012年3月の正月休みに放送された。

また、イラン国営テレビでは、放送対象の外国製番組選定の際に、特に、子供に対する影響を考慮し、子供が自然に年長者に対する敬意や強い意志を身につけるように、家族の絆、自国の伝統、過去の歴史が描かれている作品を選ぶそうだと。日本アニメの場合、表より明らかのように、例えば、サッカー以外のスポーツアニメ、魔女っ子が主人公のアニメ、アクション・戦闘シーンが多いアニメ、SFアニメ、少女マンガが原作のアニメなどは、ほとんど放送対象となっていない。特に、宗教上の理由により、女性の頭髮・肌の露出度の高い画像を含むアニメは避けられている。

さらに特筆すべきこととして、2000年代に入り、イラン国営テレビによる日本テレビアニメのライセンス取得数は極端に減少している。国営テレビの外国番組選定担当によると、ライセンス取得減少の直接的な理由は特になく、ただ、取得の機会がなかったただけだそうである。しかし、同担当者は、近年の日本のアニメには、家族の絆や伝統文化を扱ったものが少ないということを先に指摘していた。すなわち、近年の日本アニメの題材や作風が、イラン国営テレビの求めるイメージと重ならなくなったのだと考えられる。

また、イランでは、90年代に入り、アメリカのアニメーションが放送され始め、近年では、イラン国内で、需要のある3Dアニメーションやストップモーション・アニメーションの制作が活発化していることも影響しているだろう。加えて、2000年代後半から、国営テレビが「宮廷女官チャングムの誓い」（2006年秋放送）をはじめとする多くの韓国ドラマを放送するようになり、2008年夏には、チャングムの少女時代のエピソードであるアニメーション「チャングムの夢」も放送した。このように、日本以外の東アジア圏のアニメーション需要が高まりつつあることも、新たな日本アニメのライセンス獲得の減少の一因であろう。

おわりに

本稿で紹介した 10 代から 30 代のテヘラン在住の若者達の多くに共通していることは、幼少期にイラン国営テレビで「子供向け」の日本アニメを観て育ち、宮崎駿のアニメ映画をきっかけに近年の日本アニメに関心を持つようになったこと、そしてアニメをきっかけに日本の他の文化コンテンツも利用するようになったことである。また彼ら自身が日本アニメから学んだことにより、考え方や生き方に良い影響を受けたと認識していること、さらにアニメやその他の文化コンテンツへの関心から日本語を勉強するようになったことなどが挙げられる。

彼らのうち 20 代後半から 30 代初の若者は、幼少期（すなわち 1980 年代から 90 年代）に、1970 年代から 80 年代に制作された「子供向け」の日本アニメを観て育った。そして成年に達した 2000 年代後半に⁽⁴⁶⁾、宮崎駿監督のアニメ映画「千と千尋の神隠し」「ハウルの動く城」に、吹替え版 DVD やテレビ放送を通して出遭った⁽⁴⁷⁾。その後、2000 年代の高速インターネットの普及により、「DEATH NOTE」や日本で長期に放送されているテレビアニメ「NARUTO -ナルト-」「Bleach」「ONE PIECE」をはじめとする日本アニメと「再会」し、新たなアニメや原作のマンガの世界を開拓し始めた。

また、彼らより一回り下の世代である 10 代から 20 代初の若者は、幼少期に、イランや欧米のアニメーションと共に、80 年代から 90 年代に制作された「子供向け」の日本アニメを視聴して育った。そして学生時代に、宮崎駿監督のアニメ映画に触れた。彼らにとってインターネットは、幼い頃より身近に存在した。高速インターネットの普及に伴い、自然に日本アニメやマンガの情報や動画・画像コンテンツのデータを入手するようになった。

このようにイランの若者を魅了したアニメ映画の制作者・宮崎駿監督

は、彼らが幼少期に観た「母をたずねて三千里」「アルプスの少女ハイジ」などのテレビアニメの制作に携わった人物である。また現在、彼らが夢中になっているアニメの制作会社の多くは、彼らが幼少期に観た日本アニメの制作会社、またはそれらの制作会社の出身者達が設立した制作会社だ。彼らは、現在、幼少期に観た馴染みのアニメの「後身アニメ」を楽しんでいるのである。

先に触れたように、近年のイランではアニメーションの制作が盛んで、2002年春には、アニメーション専門誌、月刊『ピールバーン・アニメーション』が刊行された。同誌は、212号（2011年末出版）を最後に、2012年5月に資金不足等の理由により休刊となったが、イラン内外の様々なアニメーション、映画、グラフィック、風刺画に関する多彩な論評記事を毎月送り出してきた。同誌では、日本の複数のアニメ作品が、数頁にわたるカラー特集記事で紹介された。具体的には、105号「Bleach」（2011年3月：4頁）、106号「地獄少女⁽⁴⁸⁾」（2011年5月：5頁）、108号「サムライチャンプルー」（2011年7月：3頁）などである。そして110号の表紙は「NARUTO－ナルト－」の主人公うずまきナルトで、6頁にわたる特集記事が組まれた（2011年10月：6頁）。

さらに2012年10月には、独立行政法人国際交流基金が、文化芸術交流推進企画の一環として、「劇場版 NARUTO－ナルト－大激突！幻の地底遺跡だってばよ」（2005年公開）の監督川崎博嗣氏と、「スタジオぴえろ」の制作管理部長青木訓之氏をテヘランに派遣した。そして、10月11日と12日の2日間にわたり、青木氏による日本のアニメーション制作についてのレクチャー、川崎監督による手描きデモンストレーション、ワークショップ参加者への作画指導が行われた後、会場で「劇場版 NARUTO－ナルト」が上映された。10月13日のNHKの朝のニュースでは、イランのアニメファンが真剣にアニメを描く姿が流れた。

現在のイランでは、このような日本アニメ映画の公式上映やアニメ業界

の専門家達の訪問は極めて稀で、アニメのDVDは、一部のアニメ映画以外は、販売されていないし、原作マンガが出版されることもない。イランのアニメファンにとって、日本の文化コンテンツにアクセスする方法は、インターネット経由の違法ダウンロードという術を除けば、非常に限られている。一方、日本では2010年1月に著作権法が改正された。さらに、2012年10月には、私的違法ダウンロードの罰則化に関する改正が施行され、違法ダウンロードに対する規制が厳格化した。今後、イランのアニメファンが望むように、日本の文化コンテンツがイランで紹介されるためには、日本はコンテンツ配信の方針を柔軟に調整しながら、イラン国営テレビと若者をはじめとするイラン国民の文化コンテンツの嗜好・需要傾向に対応してゆく必要がある。

注

- (1) 1986年生の歌手、俳優、タレントである亀梨和也を指す。ジャニーズ事務所所属の男性アイドルグループKAT-TUNのメンバー。ジャニーズ事務所は、1962年に設立された日本の芸能プロダクションの一つで、代表取締役社長はジャニー喜多川（喜多川擴）。後述のSMAPの木村拓哉も同事務所に所属する。
- (2) 英語名称 Islamic Republic of Iran Broadcasting。1949年に設立され、国内向けのラジオ・テレビ放送のほか、ラジオと衛星テレビによる国際放送を行っている。1979年のイラン・イスラーム革命以前の社名は、イラン国営ラジオ・テレビ（NIRT）であった。
- (3) 田倉は、主人公おしんの結婚後の苗字。竜三は、おしんの夫の名。
- (4) 「はね駒（はねこんま）」は、1986年4月からまで放送されたNHK朝の連続テレビ小説第36作。
- (5) 北海道富良野市で生活する父子を描く倉本聡脚本のテレビドラマ。日本ではフジテレビ系列で1981年から2002年にかけて放送された。イランで放送された部分は、シリーズ第一作の連続ドラマ。
- (6) イランでの「おしん」の人気については、例えば、大前信子1999「イラ

- ン出稼ぎ事情」上岡弘二編著 1999『アジア読本 イラン』河井出書房新社、187・189 頁、南里浩子 1999「「おしん」はボルノ？——映画・ドラマの検閲」上岡編 1999、220-221 頁参照。
- (7) 例えば、大前 1999、183-189 頁。
- (8) このような日本に対する一般的イメージについては、例えば、小暮修三 2008『アメリカ雑誌に映る〈日本人〉オリエンタリズムへのメディア論的接近』青弓社参照。
- (9) 北原圭一、ホダーキャラム・アーザルパランド 2004「イランの空に日本語の響き——テヘラン大学の日本語教育」岡田恵美子、北原圭一、鈴木珠里編 2004『エリア・スタディーズ イランを知るための 65 章』明石書店、374-377 頁。
- (10) イランの映画ファンに黒澤明や小津安二郎の映画がよく知られていることについては、例えば、鈴木均 1999「革命後のイラン映画」上岡編 1999、200-205 頁。
- (11) 小暮修三 2008、松居竜五 2009「変容する日本イメージ——マンガのグローバル化がもたらすもの」佐々木英昭、松居竜五編著『龍谷大学国際社会文化研究所叢書 第 9 巻 芸術・メディアのカルチュラル・スタディーズ』ミネルヴァ書房、13-40 頁、同書中のウィリアム・ブラドリー 2009「ゲイシャはいかにして文化となり得るか」、66-81 頁。
- (12) 「BLEACH（ブリーチ）」は、悪霊である虚（ホロウ）の退治者（死神）になってしまった高校生の黒崎一護と彼の仲間達の活躍を描く、久保帯人によるマンガ作品。マンガは 2001 年から『週刊少年ジャンプ』（集英社）にて連載中で、2012 年 12 月現在 57 巻まで出版されている。テレビアニメは、スタジオぴえろ制作、2004 年秋から 2012 年 3 月までテレビ東京系列及び 21 局ネットで放送され、劇場版も公開されている。
- (13) 「オタク」という言葉を「NHK によろこそ」のアニメを通して知ったイラン人も多い。「NHK によろこそ」は滝本竜彦原作の小説（2002 年出版）で、大学を中退した引きこもりの青年と、それを救うことが目的という少女を軸に、引きこもり青年の葛藤の日々を描いた作品。大岩ケンヂによりマンガ化され、『月刊少年エース』にて連載（2004-2007 年）、2006 年にアニメ化された。作品の題名の「NHK」は、日本の公共放送 NHK、すなわち「日本放送協会」の略ではなく、「日本ひきこもり協会（Nihon Hikikomori

イランにおけるアニメの諸相

Kyokai)」の略である。

- (14) 岸本斉史によるマンガ作品。忍者のうずまきナルトが、諸国の忍との戦いや数々の試練を通して、仲間との友情、裏切り、復讐、師弟の絆により成長していく物語。マンガは1999年から『週刊少年ジャンプ』にて連載中。テレビアニメはテレビ東京系列で2002年秋から2007年2月まで放送され、劇場版は3作品が公開され、ゲームも発売された。
- (15) 尾田栄一郎によるマンガ作品。『週刊少年ジャンプ』にて1997年から連載中。テレビアニメは、東映アニメーション制作で、1999年10月から現在まで放送中。劇場版は12作品公開され、ゲームなども発表されている。海賊となった少年が「ひとつなぎの大秘宝（ワンピース）」を追い求める海洋冒険ロマン。夢への冒険、仲間達との友情、多彩なアクションバトル、ギャグシーン、感動的なエピソードが描かれる。壮大な世界観を背景に、戦争、権力、領土問題、宗教問題、差別問題など様々な現代社会の問題に対する風刺がこめられている。
- (16) 原作大場つぐみ、作画小畑健による日本のマンガ作品。2003年12月から2006年5月まで『週刊少年ジャンプ』に連載され、国内外で記録的な単行本発行数を誇る。死神のノート「デスノート」を使って犯罪者を抹殺し、理想の世界を作り上げようとする少年と名探偵の頭脳戦を描く。マッドハウス制作のテレビアニメが、2006年から2007年まで日本テレビ系列で放送されたほか、2部構成の実写映画と外伝映画が公開された。
- (17) 斎藤正道 2009「各国事情（1）イラン・インターネット事情」『東京外国語大学総合情報コラボレーションセンター年報』第4号、19-32頁。
- (18) <http://www.internetworldstats.com/stats5.htm>（2013年1月6日にアクセス）
- (19) 「ごくせん」とは「極道先生」の省略形で、森本梢子によるマンガ作品。マンガ雑誌『YOU』（集英社刊）で、2007年2月まで連載されていた。極道の跡取り娘である主人公が高校教師として活躍する内容。日本テレビ製作で2002年以降テレビドラマ化（シリーズ3作、単発2作）され、2004年にはテレビアニメが日本テレビ系で放送された。2009年7月にはテレビドラマ版の劇場用作品『ごくせん THE MOVIE』が公開された。
- (20) 日本では、2001年公開。
- (21) 真島ヒロによるマンガ作品。2012年現在『週刊少年マガジン』（講談社）

- において連載中。2009年10月よりテレビ東京系列でアニメが放送中。
- (22) 田辺イエロウによるマンガ作品。『週刊少年サンデー』2003年47号から2011年19号まで連載された。主人公の結界師が、夜の学校を舞台に「結界術」を使い妖怪退治を行う物語。テレビアニメが2006年秋から2008年2月まで放送された。
- (23) 原題「The Little Mermaid」。1989年11月17日公開。日本での公開日は1991年7月20日。
- (24) 矢沢あいによるマンガ作品。テレビアニメは日本テレビ系列で2006年春から2007年春まで放送され、日本では社会現象を起こす大ヒットとなった。実写映画も2本公開された。
- (25) ニノ宮知子によるクラシック音楽をテーマとしたマンガ作品。女性漫画誌『Kiss』（講談社）にて2001年から2010年まで連載された。2006年後半に連続ドラマがフジテレビ系列で放送され、その特別編（2008年1月放送）とその続編として、映画2部作が2009年と翌年にかけて公開された。
- (26) 1980年生の日本の俳優、歌手。
- (27) イランでは、現在、国内ゲームの開発が推進されている。2012年6月には、第2回 Tehran Game Expo が開催された。
- (28) 日本のテレビアニメ（2004年放送）及びこれを原作とするマンガ作品（2004年発表）。プレイステーション2対応アクションゲームとソーシャルゲームが開発された。
- (29) 「サムライスピリッツ」に登場する架空のアイヌの巫女ナコルルの声優である生駒治美とナコルルの妹リムルルの声優である神谷けいこが歌を担当している。
- (30) 野坂昭如による同名小説を原作とする、監督・脚本高畑勲、制作スタジオジブリのアニメ映画（1988年4月公開）。
- (31) 日本のアニメ監督、マンガ家（1963-2010年）。監督作品：「PERFECT BLUE」（1997年）、「千年女優」（2001年）、「東京ゴッドファーザーズ」（2003年）、「パブリカ」（2006年）。
- (32) ここではジャパニーズ・メタルを指す。1980年代に流行した音楽のジャンルで、日本人によるヘヴィメタル（1980年代後半から1990年代ははじめにかけて現れたロックのスタイル）。
- (33) 日本のヴィジュアル系ロックバンド。1989年にX（エックス）としてメ

イランにおけるアニメの諸相

ジャーデビュー。その後 1992 年に現在の X JAPAN に改名。1997 年 9 月 22 日に解散したが、2007 年 10 月 22 日再結成。

- (34) 1971 年生の日本のミュージシャン。
- (35) ここでは、特定の娯楽作品が一定の経済効果を獲得した際に、その作品の副次的作品を複数の種類の娯楽メディアを通して多数製作することでファンサービスと商品販促を拡充する手法を指すことが多い。
- (36) 話の起承転結を短時間にまとめようと意識してつくられたアニメ。
- (37) 空知英秋によるマンガ作品。『週刊少年ジャンプ』にて 2004 年 2 号より連載中。テレビアニメは、第 1 期（2006 年春から 2010 年春）、第 2 期（2011 年春から翌年春）の後、第 3 期が放送中（2013 年 1 月から）。
- (38) イランでは公共の場で未婚の男女が同席することや男女が一堂に会するパーティー等は原則的に禁止されており、取り締まりの対象となる。
- (39) 特定のストーリーを一連のコマやイラストレーションにより伝えるマンガ形式の一つ。コミック・ストリップは単独のマンガ家、あるいは画家によって執筆され、通常は毎日あるいは毎週、新聞やインターネット上で連載される。イギリスやヨーロッパでは、これらのコミック・ストリップはマンガ雑誌にも連載され、多くの場合は 3 ページかそれ以上にわたり連続して掲載される。
- (40) 1957 年生のマンガ家。著作として『うる星やつら』『めぞん一刻』『らんま 1/2』『犬夜叉』『人魚の森』などがある。
- (41) 武内直子によるマンガ作品（1992-1997 年発表）、またそれを原作としたアニメなどの作品群。
- (42) この場合のカートゥーンは、animated cartoon の意味で使用されている。
- (43) これらの 3 語の日本国内と海外における定義については、「アニメ！アニメ！」の「第 1 回アニメとアニメーションの違い」<http://animeanime.jp/article/2008/02/17/2787.html>（2012 年 12 月末アクセス）
- (44) 静止している物体を 1 コマ毎に少しずつ動かしカメラで撮影し、あたかもそれ自身が連続して動いているかのように見せる映画の撮影技術、技法。アニメーションの一種であり、SFX の一種。紙、切り絵、クレイ、砂、人形（パペット）、モデルを使用したコマ撮り、リプレイスメント・アニメーションなどが含まれる。
- (45) 日本とイランのアニメ作品の有効契約は 2011 年時点で 2 件存在する（森

祐治 2012 「3-1. 世界の中の日本アニメーション」『アニメ産業レポート 2012』一般社団法人日本動画協会 データベースワーキング、41 頁)。この 2 件は「崖の上のポニョ」「借りぐらしのアリエッティ」に相当すると思われる。

- (46) 「My Anime List」<http://myanimelist.net/> (2012 年 12 月 28 日アクセス) の利用者のうち、筆者が確認できたペルシア語母語話者は約 130 名、そのうち 2007 年の登録者が最も初期からの利用者である。その後、2008 年後半より登録者数が増え始め、2010 年の登録者が目立つ。高速インターネットの普及が影響していると考えられる。
- (47) イラン国内では、1995 年より衛星放送受信は、原則として禁止されているが、特に、高速インターネットの普及以前に、外国、例えばフランスやイタリアの衛星放送を通して、日本アニメをはじめとする外国のアニメーションを視聴した人々が存在したことは否定できない。
- (48) 「地獄送り」をテーマとしたホラー・テレビアニメ全 3 作 (2005 年から 2009 年放送)。また、それを原作にした永遠幸によるマンガ、テレビドラマ、ライトノベル、コンピュータゲームなどを含むシリーズ作品総称。

イランにおけるアニメの諸相

表：イラン国営テレビにより放送された日本アニメ

| 題名 | 制作会社・放送会社 | 日本国内放送年(イラン国内) |
|-----------------------|--|---------------------|
| ジャングル大帝 (版不明) | 虫プロダクション、フジテレビ系 | 1960年代、または80年代 |
| カバトット | 竜の子プロダクション、フジテレビ系 | 1971-72年 |
| 樫の木モック | 竜の子プロダクション、フジテレビ系 | 1972年 |
| 山ねずみロッキータック | ズイヨー映像、フジテレビ系 | 1973年 |
| 小さなバイキング ビッケ | ズイヨー映像・ZDF (ドイツ) の共同制作、フジテレビ系 | 1972-74年 |
| 星の子チョピン | スタジオゼロ、TBS系 | 1974年 |
| アルプスの少女ハイジ | ズイヨー映像、フジテレビ系 | 1974年 |
| フランダーズの犬 | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1975年 (1375-1376年～) |
| みつばちマーヤの冒険 | 日本アニメーション、朝日放送系 | 1975年 |
| フランダーズの犬 | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1975年 (1375-1376年～) |
| アラビアンナイト シンドバットの冒険 | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1975-76年 |
| アンデス少年ベベロの冒険 | 和光プロ、NET系 | 1975-76年 |
| ハックルベリーの冒険 | グループタック、フジテレビ系 | 1976年 (1370年～) |
| 母をたずねて三千里 | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1976年 |
| ピノキオよりピコリーノの冒険 | 日本アニメーション、朝日放送系 | 1976-77年 |
| シートン動物記 くまの子ジャッキー | 日本アニメーション、朝日放送系 | 1977年 (Ch1) |
| あらいぐまスカル | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1977年 |
| ドン・チャック物語 | ナック、東京12チャンネル系 | 1975年 |
| ドン・チャック物語 (第2期) | ナック、東京12チャンネル系 | 1976-78年 |
| 家なき子 | 東京ムービー新社、日本テレビ系 | 1977-78年 (1370年正月) |
| ペリーヌ物語 | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1978年 |
| まんが世界昔ばなし | ダックスインターナショナル、TBS系 | 1976-79年 |
| 星の王子さま プチ・フランス | ナック、朝日放送系 | 1978-79年 |
| シートン動物記 りすのパナー | 日本アニメーション、テレビ朝日系 | 1979年 |
| 赤毛のアン | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1979年 |
| くじらの子ホセフィーナ | 国際映画社、葦プロダクション、東京12チャンネル系 | 1979年 |
| 北極のムーシカミーシカ (映画) | 虫プロダクション、日活児童映画 | 1979年公開 |
| こぐまのミーシャ | 日本アニメーション、テレビ朝日系 | 1979年制作、1979-80年放送 |
| アニメーション紀行 マルコ・ポーロの冒険 | MK、NHK | 1979-80年 |
| まんが猿飛佐助 | ナック、東京12チャンネル系 | 1979-80年 |
| さすらいの少女ネル | ダックスインターナショナル、東京12チャンネル系 | 1979-80年 |
| トム・ソーヤの冒険 | 日本アニメーション、フジテレビ | 1980年 |
| 森の陽気な小人たち ベルフィーとリルビット | 竜の子プロダクション、東京12チャンネル系 | 1980年 (Ch2) |
| ニルスのふしぎな旅 | 学研、スタジオぴえろ、NHK | 1980-81年 |
| 杜子春 (TV スペシャルアニメ) | ダックスインターナショナル、TBS系 | 1981年4月12日放送 |
| 名犬ジョリイ | ビジュアル80、NHK | 1981年 |
| 愛の学校クオレ物語 | 日本アニメーション、TBS系 | 1981年 (Ch1) |
| 家族ロビンソン漂流記 ふしぎな島の花ネ | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1981年 |
| 一休さん | 東映動画、NET系→テレビ朝日系 | 1979-82年 |
| まんが水戸黄門 | ナック、東京12チャンネル系 | 1981-82年 (Ch2朝) |
| 南の虹のルーシー | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1982年 |
| まんがイソップ物語 | 日本アニメーション、テレビ東京系 | 1983年 |
| セレンディビティ物語 ビュア島の仲間たち | ズイヨー、日本テレビ系 | 1983年 |
| アニメ 80 日間世界一周 | 日本アニメーションとBRB Internacional (スペイン) 共同制作、テレビ朝日系 | 1983年制作、1987-88年放送 |

表：イラン国営テレビにより放送された日本アニメ（続）

| 題名 | 制作会社・放送局 | 日本国内初放送年(イラン国内) |
|-----------------------------------|---|---|
| アルプス物語 わたしのアンネット | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1983 年 |
| まんがはじめて物語 | ダックスインターナショナル、TBS 系 | 1978-84 年 |
| スプーンおばさん | 学研、スタジオぴえろ、NHK 総合 | 1983-84 年 |
| とんがり帽子のメモル | 東映動画、テレビ朝日系 | 1984 年 (Ch1) |
| 牧場の少女カトリ | フジテレビ系 | 1984 年 |
| ロボテック (Robotech) | 竜の子プロダクション制作「超時空要塞 マクロス」・「超時空騎団サザンクロス」・ 「機甲創世記モスピーダ」の3作品を Harmony Gold USA がライセンス取得、 翻案、再編集した作品 | 1985 年 |
| キャプテン翼 | テレビ東京系 | 1983-86 年 |
| ドリモグダ!! | ジャパコンマート、日本テレビ系 | 1986-87 年 |
| メイプルタウン物語 | 東映動画、朝日放送系 | 1986-87 年 |
| 新メイプルタウン物語 バームタウ ン編 | 東映動画、テレビ朝日系 | 1987 年 (Ch2 朝) |
| 愛の若草物語 | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1987 年 |
| 瞳のなかの少年 15 少年漂流記 (TV スペシャルアニメ) | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1987 年 10 月 19 日放送 |
| がんばれ! キッカーズ | スタジオぴえろ、日本テレビ系 | 1986-87 年 |
| ドラゴンボール | 東映動画、フジテレビ系 | 1986-89 年 (1380 年夏、一部) |
| 昆虫物語みなしごハッチ | 竜の子プロダクション、フジテレビ系 | 1970-71 年 |
| 昆虫物語新みなしごハッチ | 竜の子プロダクション、NET 系 | 1974 年 |
| 新・昆虫物語みなしごハッチ | 竜の子プロダクション、日本テレビ系 | 1989-90 年 |
| 私のあしながおじさん | 日本アニメーション、フジテレビ系 | 1990 年 |
| ガンバの冒険 | 岩波書店、東京ムービー社、日本テレビ 系 | 1975 年 (比較的最近放送) |
| ガンバとカワウソの冒険 (映画) | 東京ムービー新社 | 1991 年 |
| ロビンフッドの大冒険 | 竜の子プロダクション、NHK 衛星第 2 | 1990-91, 92 年 (1375 年) |
| ママは小学 4 年生 | サンライズ、日本テレビ系 | 1992 年 |
| 3 丁目のタマ うちのタマ しりま せんか | グループタック、TBS 系 | 1993 年 |
| 3 丁目のタマ うちのタマ知りま せんか | グループタック、毎日放送系 | 1994 年 |
| 赤ちゃんと僕 | スタジオぴえろ、テレビ東京系 | 1996-97 年 |
| 怪傑ゾロ | 葦プロダクション、NHK 衛星第 2 | 1996-97 年 |
| 国外では 1990 年代初頃放送 | | |
| デジモンアドベンチャー | 東映アニメーション、フジテレビ系 | 1999-2000 年 (1380-81 年頃) |
| ハウルの動く城 (映画) | スタジオジブリ | 2004 年公開 2007 年に第 5 回テヘラン国際ア ニメーションフェスティバルに 出品 (2007 年放送、吹替 DVD) |
| 崖の上のポニョ (映画) | スタジオジブリ | 2008 年公開 (2012 年正月) |
| 借りぐらしのアリエッティ (映画) | スタジオジブリ | 2010 年公開 (2012 年正月) |

(暫定版として筆者作成。なお、制作会社、放送局、放送年については、主に山口康男編著『日本のアニメ全史』テン・ブックス、2004 年参照)